

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 3月13日

【評価実施概要】

事業所番号	4072200373
法人名	医療法人 かつき会
事業所名	グループホーム ゆうゆう
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉市下浦715番地 (電話) 0946-22-6191

評価機関名	株式会社 アトル		
所在地	福岡市博多区半道橋 2 - 2 - 51		
訪問調査日	平成21年2月27日	評価確定日	平成21年3月31日

情報提供票より】(21年 2月 18日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤 8人 非常勤 0人	常勤換算	8人

(2) 建物概要

建物形態	併設型	改築
建物構造	鉄筋コンクリート 造り	
	4 階建ての	3 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 900円		

(4) 利用者の概要 (2月 18日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	5 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	香月病院 ・ 甘木病院 ・ ほりお歯科
---------	---------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

法人代表が、母体である病院に入院している高齢者が退院してからの生活が安心できるようにまた、地域に貢献したいとの思いでホームを立ち上げた。ホームは以前病棟として使用していた部分をリフォームし和風の趣きがあり窓が大きく明るい自然の採光が取り入れられ、畳のスペースもありゆっくりと寛げる環境である。ホームの玄関とは別に病院から直接出入りできる為、利用者の家族や知り合い等気軽に面会に来られ、利用者が馴染みの人と関わり入居以前と変わらず生活している。また、病院に併設している為いつでも利用者の状態の変化に対応できるよう連携しており利用者が安心して暮らせる環境が整っている。

重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価を運営推進会議にて報告し法人、ホームで取り組みを行っている。理念については地域との関わりを話し合いホームとしての理念を作った。その他の改善項目についても徐々に改善しているところである。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は職員へ評価について説明し、自己評価項目を職員に振り分け、意見を出してもらいまとめている。自己評価項目を確認することでホームの現状を再確認することが出来た。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回開催し、外部評価やホームの現状、活動の報告を行い、研修を行った。出席者は利用者、家族代表者、区長、民生委員、市担当者、ホーム関係者等となっている。会議にて意見を出してもらいホームの質の向上や、地域との関わり等に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族が面会に訪問の際に管理者や職員が必ず声をかけ、意見、要望を聞き取っている。玄関には意見箱を設置している。また、必要に応じ電話をかけ意見等を聞き取っている。聞き取った意見、要望はミーティングにて話し合い対応し、家族にはその都度報告をしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣の方から畑を借り野菜等作っており、近隣の方が時々畑の管理をしてくださっている。地域の文化祭に利用者の作品を出展したり、幼稚園との交流会に参加している。また、時折ボランティアの訪問により利用者との交流の機会がある。町内会には加入しておらず、地域の活動への参加の機会は少ない。

2. 評価報告書

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅰ.理念に基づく運営					
1.理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、ホームで話し合い地域の中でゆったり ゆうゆう自適に暮らして行くという意味合いの理念を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、朝礼時に不定期ではあるが管理者から理念についての話をする事で職員が再確認を行っている。日々の業務遂行時に忙しくなったり、慌しく動いているときは職員相互で「ゆったりと...」と声を掛け合い理念の実践に取り組んでいる。		
2.地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には入っておらず、地域の活動への参加の機会は少ないが、近隣の方から畑を借り近隣の方の協力にて野菜を作っている。利用者の特技や趣味の作品を地域の文化祭に出展したり近隣の幼稚園との交流、ボランティアの受け入れ等を行っている。		地域との関わりは徐々に増え、交流の機会もあるが、ホームが地域に関わりを持ち、地域の一員として活動できるような取り組みを行ってはどうだろうか。
Ⅱ.評価					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は職員へ評価についての説明をし項目を職員が確認し意見を出し記入し管理者がまとめている。改善項目に関しては徐々に取り組んでいる状況である。		自己評価、外部評価において評価を受けることの意義は理解しているが、管理者が代わったこともあり前回の評価からの取り組みが充分に行われていない状況である為、再度評価項目等を確認し全員で話し合い更なるホームの向上に繋がることを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的開催し、外部評価、ホームの現状や活動の報告を行い出席者から意見を頂戴し、また、研修の場にしたりと会議を活用している。出席者は、利用者、家族代表、区長、民生委員、市担当者、ホーム関係者等となっている。		

グループホーム ゆうゆう

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営や制度等で不明な点が発生した場合、出向いたり電話にて相談し、担当者と関わっている。ホームのパンフレット等も持参しホームの現状を伝えている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	法人内研修にて制度の説明があり、更にホーム内で勉強会を開き職員の周知理解に取り組んでいる。パンフレットは目に付きやすい場所に置き必要な時は説明できるようにしている。		
4.理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らし方や健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や、電話にて利用者の暮らし方や近況の報告とホーム便りを請求書に同封し行事やホームの現状を報告している。職員の異動等は面会時に報告、紹介等行っている。金銭に関しては、必要な人のみ小口現金の預かりにて管理している。面会時に領収書、残金の照合をしてもらっているが確認のサインが無かつ		家族へはその都度報告しているが、ホーム便りを更に利用し、個々の状態や暮らし方を添えてはどうだろうか。文章にすると家族はより安心されるのではないだろうか。金銭の預かりの照合の際には家族のサインや日付を記入してもらって確認の有無等わかりやすいのではないだろうか。
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し要望や意見を表出しやすくしている。また、面会時や電話にて意見等聴き取る機会を作り、家族からの要望等あった場合はミーティングを開き話し合い対応し即座に報告している。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は必要に応じあるが、病院と併設しており利用者はリハビリに行ったり、行事等合同であり顔見知りなので特にダメージは無い。離職等で引継ぎを行う際は経験の多い職員が新人職員に付き添い利用者の状態等伝えている。異動や離職の場合はホーム便りにて報告している。		

グループホーム ゆうゆう

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
11	19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集は法人で行い法人の担当者が面接を行っているが、年齢や性別等特に条件は無い。採用された職員は、ホーム内で特技を活かしホーム便りを作成したり、趣味の手芸や書道の腕前を発揮できている。</p>		
12	20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人内で接遇に関する研修を行っている。ホームでは朝礼時に接遇に関するマニュアル文を唱和し、全職員が人に対する姿勢について周知し相互に確認している。</p>		
13	21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体での研修会は医療安全、給食、研修の委員会があり担当者が勉強会を開いている。ホームでは、月に1回ミーティング時に研修会を持ち学ぶ機会を作っている。外部研修への案内にて参加し報告書はホーム内で閲覧しいつでも情報収集できるようにしている。</p>		
14	22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム連絡協議会に参加し他のホームの見学や知識向上、それぞれの課題に対する検討会議を開いている。スタッフセミナーも年に4回あり他のホームの職員とも連携を図る機会がある。</p>		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	併設の病院に入院している人の入居が多く、病院で本人や家族から生活環境やその他情報を収集し、職員全員が把握しているが、体験入居や自宅訪問は行っていない。		本人の生活環境を知ることがホームでの生活に於いて以前の生活を継続する手がかりになり本人が馴染みやすい環境となるのではないかと、何らかの情報を得る為に自宅訪問や日帰りでも体験利用を検討してはどうだろうか。
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり 支えあう関係を築いている</p>	利用者から昔の生活の様子や、暮らしの知恵を教わり、職員がホームでの業務に生かすことがある。また、利用者と職員が常に会話し、家族のように接することで職員のほうが気持ちが和むことが多い。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	本人との何気ない会話から本人の状況、趣味を聴き取り、表情や行動からも思いを汲み取っている。家族からも面談や電話にて意向を聴き取っているがアセスメントには主にADLに関する情報が記録されている為、意向や思いが確認しづらい。		計画作成者や職員其々がアセスメントに関わっている中で、ADLと意向や思いが記述できる方式のアセスメントを試してはどうだろうか。センター方式の一部を利用する等検討し、利用者の意向が一層反映されるよう取り組むことが望まれる。
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人との会話や表情、家族からの聞き取りにて計画を作成しているが、アセスメントから確認しづらい。また、長期、短期目標が客観的で本人の意向と重なっていないものがある。計画を作成する際は担当者会議を開き、利用者、家族、主治医、担当職員、計画作成者等で話し合っている。		確実に担当者会議を開き全員で計画を作成しているが目標を本人の言葉や、気持ちを表したものにすると本人の生活の目標がはっきりし、それに添った暮らし方等が解りやすいのではないだろうか。
19	39	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	3ヶ月に1回計画作成者や職員とで短期目標を見直している。日々の生活の中での職員の気付きや状態の変化に伴い計画を見直し、ミーティングにて話し合い計画を再度見直している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族が受診に付き添えないときには職員が同行している。特別な場所への外出の支援や、家族の宿泊等受け入れている。利用者が入院した場合は病院へ出向き状態の確認や洗濯物の交換等行い家族の負担軽減の支援を行っている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者がホームの協力医がかかりつけ医であるが、本人の希望があれば元からのかかりつけ医を継続している。協力医、主治医の往診は不定期にあり、看護師の訪問は1週間に1回あり、利用者の状態の確認と医師との連携を図っている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化、看取りに関しての指針があり、家族に説明、同意書を交わしている。意向は全職員が共有し本人の状態の変化に対応しケアしている。		
1.その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーに配慮した対応を行っている。年間に接遇月間を設定し、全職員が利用者に対する言葉使い等見直し確認している。個人記録は職員ルームの鍵の掛かる書庫に保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、本人のペースに合わせ、その日にしたいことを優先し過ごせるよう声をかけ確認している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設の病院厨房にて調理されたものが届けられ、盛り付けや配膳等できる事を職員と一緒にやっている。日曜日はホームで食事を作り、その際には利用者の希望を聴き取り一緒に調理することもある。職員はそれぞれに弁当等を持参し利用者と同じものを食していない。		日曜日は利用者の好みを取り入れ、調理にも利用者が関われる工夫をしているが、平日の昼食は職員は同じものを食していない為、味付けや柔らかさ等確認しづらいのではないだろうか。同じ食事を当番制でも試み、利用者の食事の把握に取り組むことが望まれる。
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	水、土曜日と一応決まっているが、本人の希望により毎日でも入浴可能である。また、個浴、大きい浴室で複数人での希望も聴き取り対応している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるよう、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	テーブルを拭いたり、食事の盛り付け、モップかけや洗濯物たたみ等利用者それぞれに役割があり、出きることを楽しんでいる。誕生会や季節のドライブ、買い物等気晴らしの支援を行っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	畑まで野菜の成長等を見に散歩に出かけている。近隣の地蔵までお参りに行ったり、食材を買いに行くことはあるが、日課や日常の外出までは至っていない。		外出する人や外出する場所等条件が揃わないこともあると思われるが、気軽に戸外に出かける工夫や取り組みを行い、日課の散歩等増やしてはどうだろうか。季節を感じ利用者と職員との会話が更に増え、気分転換やストレスの発散、五感の刺激となるのではないだろうか。
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの玄関に繋がるエレベーター、病棟に繋がる出入り口があるが、日中鍵はかけておらず、自由に行き来できる。利用者が出かける時は見守りを行っている。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で年に1回、ホーム独自で年に2回の避難訓練を行っている。12月には消防署立ち合いのもと夜間も含め3回訓練を行い、職員の周知徹底を図っている。地域からの協力支援に関しては法人本部で呼びかけている。外部からの援助時に活用できるよう居室に番号を掲示し救助漏れの無いよう工夫している。備蓄品は併設の病院に確保されている。		

グループホーム ゆうゆう

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通して確保できるよう一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の病院の管理栄養士が献立作成しており、食事形態、カロリー等配慮している。食事摂取量は毎食の記録によりチェックしており、水分摂取量は必要に応じ記録している。水分の摂取が不足しないよう定期的に好みの飲み物を出す等配慮している。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないよう配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関周りには花が植えられたプランターを置き、家庭的な雰囲気を出している。ホーム内は和風の家具や、季節の飾りがあり、温かな雰囲気であり、外の景色を眺めながらゆっくり寛げるよう大きなソファが置かれている。廊下には間接照明が施され明るすぎ落ち着いた雰囲気を醸しだしている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の使い慣れた家具や馴染みの道具が置かれ、本人の生活が入所前から途切れることなく継続できるように配慮されている。		